

産学連携の中での特定研究成果活用事業の現状

川村 健太^{*} ^{**}

Current Status of Industry-Academia Collaboration Initiatives

Kenta KAWAMURA^{*}, ^{**}

1. 京大オリジナルについて

大学の根本である教育と研究に加え、第三の使命として社会、国際、地域、環境への貢献が言われて以来、京都大学は様々な可能性を模索してきたが、その一環として京大オリジナル(株) (以下、「京大オリジナル」) は2018年6月に設立された [1].

京大オリジナルは、京都大学がその研究成果の活用を促進するための事業会社として、コンサルティング事業、研修・講習事業を軸として、京都大学において創出された「知」を社会に循環させその収益の還元により教育研究活動を活性化することを目的としている。

京都大学には、産学連携に関わる事業子会社として、京都大学イノベーションキャピタル(株) (ベンチャーキャピタル)、(株)TLO京都 (特許・知的財産活用)、そして京大オリジナル(株) (コンサルティング、研修・講習サービス) 等がある。グループ会社とも連携し、幅広い産学連携促進のための活動を展開している (Fig. 1) .

また、筆者は2022年度から、京都大学人と社会の未来研究院社会的共通資本と未来寄附研究部門

の特定准教授として兼務をしている。人と社会の未来研究院は、「こころの未来研究センター」と「人社未来発信ユニット」が合流し、令和4年4月に設置された。本研究院では、学内での学際連携による総合知の創出、産業界や行政などの社会連携から創発する新たな研究の推進、人文社会科学の知見の学術的発信機能の拡充・強化を方針とし、人文社会科学の知見を通じて未来社会の様々な課題に対峙すべく、対話と研究を生み出す場づくりを行っていきたいと考えている。本研究院の中に、新たに社会的共通資本と未来寄附研究部門を設置、社会的共通資本と未来を考える研究の推進と拡張する社会的共通資本の社会発信を実施している [2].

2. 京大オリジナルの活動詳細

京都大学には教員3,000名以上が在籍し、様々なナレッジが蓄積されている。京大オリジナルでは学問領域を限定することなく全学分野で、コンサルティング事業、研修・講習事業を実施している。

従来から産学連携活動として行っている共同研究の組成支援にとどまらず、最近では、「知らないことを知り方向性を思索したい」「発想を飛ばしたい、構想を固めたい」というような具体的なテーマや連携先の研究者が決まっていないケースでの問い合わせも増えており、企業活動にさまざまな視点を組み込む人文社会科学の研究者を巻き込んだプロジェクトも増えてきている (Fig. 2) . 各京都大学子会社にとっても、産学連携を模索する企業にとっても、気軽に連携を模索する機会が増え

*京大オリジナル株式会社ソリューションデザイン部 京都府京都市左京区吉田本町

**京都大学 人と社会の未来研究院社会的共通資本と未来寄附研究部門

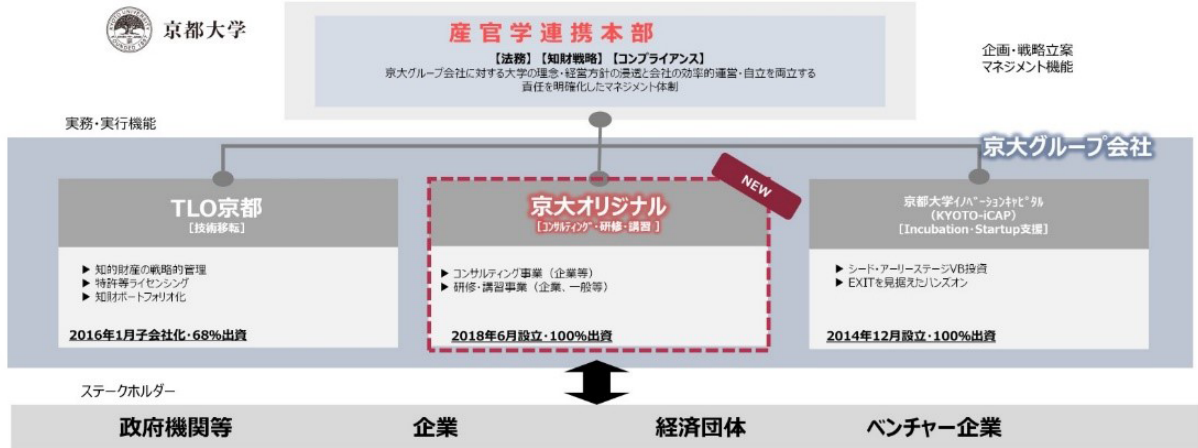
*Kyoto University Original Co., Ltd., Yoshidahonmachi, Kyoto Sakyo-ku, Kyoto

**Research Division on Social Common Capital and the Future, Kyoto University

Received: 31 January 2024.

京大オリジナル株式会社のご紹介
会社概要

2018年6月に新しく設立された京都大学100%出資の事業子会社です。
特許活用とベンチャー出資のG会社とも連携し、幅広い産学連携促進のための活動を展開しています。
※文部科学省より指定国立大学法人の指定を受けたことにより、大学としての出資が可能となり、他の国立大学に先駆けて設立した子会社



©Copyright KUO Co.,Ltd. All rights reserved. 3

Fig. 1: 京大オリジナルの概要.

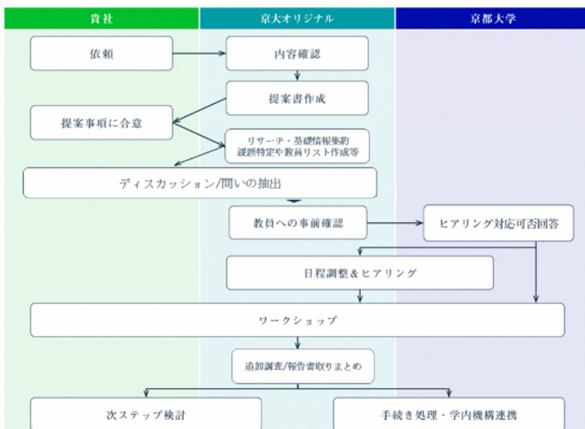


Fig. 2: 京大オリジナルの活動.



Fig. 3: 京都大学オープンアカデミー.

るきっかけを増やしていくことを目指している。

研修講習事業では、「京都大学オープンアカデミー」という名称で、社会人、法人向けの教育を実施している。エグゼクティブコース、専門コース、教養コースなど多岐にわたる講座を開講し、リカレント教育、リスク教育の拡充を目指している (Fig. 3)。

3. 京大オリジナルの活動実績

設立後、コンサルティング事業、研修講習事業ともに徐々に活動実績を増やしてきており、2022年度には以下の活動実績となっている (Fig. 4)。

- コンサルティング及び関連サービス 107件
- 研修・講習及び関連サービス 89件
- マッチングイベント・シンポジウム・研究会等開催 108回

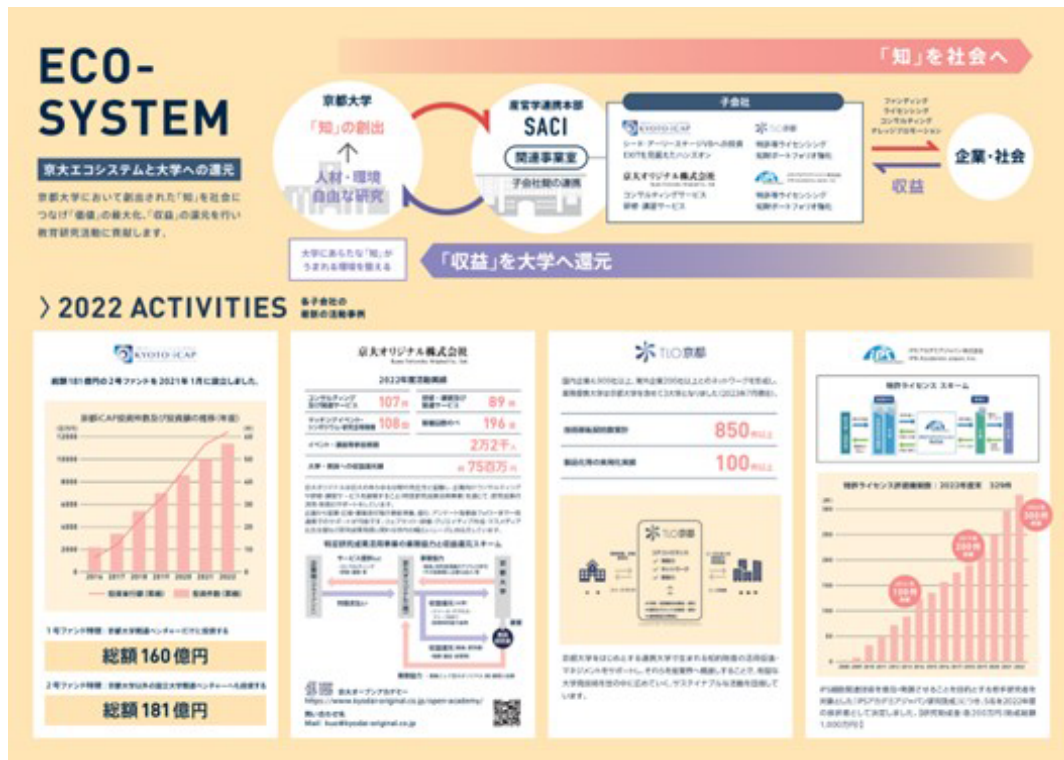


Fig. 4: 京大オリジナルの活動実績.

4. 産学連携における課題と今後の展望

大学と企業の連携は簡単ではなく、考え方や目的、手法のズレに直面することも少なくない。その一因として大学と企業をつなぐ人材不足にある。大学と企業では価値観や論理が異なっており、双方の立場を経験しないと本当の意味での橋渡しは難しく、大学の論理と企業の価値観を理解できる人材が産官学連携に飛び込める環境を作らねばならない。

もう一つ重要なのは大学の「知」を社会に還元できるシステムの構築にある。国立大学法人の枠組みでは実施が困難な活動が、会社であれば可能になる場合もある。例えば研究者が講義する研修・講習においても、会社で企画すれば学際的、多角的なテーマでの立案が可能になり、研究者へも新しい研究の場を提供することもできる。また、研究会などにおいても専門スタッフが運営することでスムーズな実施が可能になり、一方、教員へ研究や教育に専念しやすい環境を提供できる。こうした観点から京大オリジナルでは様々なフォーラム、ユニットの運営を通じて社会への貢献と大学の研

究推進を図っている。

昨今は、カーボンニュートラルをはじめとした社会課題の解決に向けて、京都大学、京大オリジナル、民間企業で連携してプロジェクトを進める例も増えてきている。2023年9月には、京都大学、(株)日本総合研究所、京大オリジナルの三者で、カーボンニュートラルの実現に向けた産官学の広範な連携体制の構築や共同研究および新規事業の創出を目的として、協業活動の協定を締結した。京都大学が開発中の各種の技術シーズからカーボンニュートラルの実現に必要なものを見極め、それらと民間の知見を組み合わせることで、新たな技術の実用化を図り、そこから新たなサービス、さらにはインフラを創出することを目指している。本協定は、産官学連携体制で大学の技術や知をカーボンニュートラルの実現に向けたビジネスや産業に還元することを目的として、革新的な技術や知を有する京都大学、社会課題解決に向けたビジョン策定から共創の場の創出までを行う日本総研、そして大学の知の社会への橋渡しを推進する京大オリジナルの三者が連携するものである。また、将来の新たな課題に対して、機動的対応していくため

のプロセスづくりについても検討する。

京大オリジナルは京大構内にありながら独立した企業であり、社員は様々な場で様々なキャリアを積んできている。この特色を生かし大学の知を社会還元するためのインターフェースとして、大学と企業の間立ち道筋を作ることを引き続き模索していく。

参考文献

- [1] 京大オリジナル (株)
<https://www.kyodai-original.co.jp/>

- [2] 京都大学 人と社会の未来研究院
<https://sccf.ifohts.kyoto-u.ac.jp/ja/>

川村 健太



京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻修了後、組織・人事系のコンサルティング会社に入社。各種組織開発案件、人材開発案件に従事。その後、事業会社にて、経営企画、インキュベーション業務、産学連携を担当。2018年京大オリジナル(株)設立に合わせ入社。「京大の知」のアウトリーチ活動、各種セミナー企画、大学の知の事業化など、複数の案件を担当。京都大学 人と社会の未来研究院 社会的共通資本と未来寄附研究部門 特定准教授 兼任。
